

こまざわ経済通信

発行
駒澤大学経済学部
同窓会
〒154-8525
東京都世田谷区駒沢
1-23-1

卒業おめでとう！

ご卒業おめでとうございます。

学窓を離れ、一己の人間として新たな航海への船出、心からお祝い申し上げます。今日から同窓会の新会員となられる皆さんを心から歓迎すると同時に、仲間となり、ともに歩んでいけますこと、我々駒澤大学卒業生一同にとりまして何よりの喜びです。

同窓会は経済学部ゼミナール連合会主催の学生シンポジウムを後援するなど、学ぶ場への支援も行っています。ぜひ卒業生の仲間として、共に大学や後輩への支援にご協力いただきたいと思います。

ところで、皆さんの学生生活後半は、コロナ禍で想定外の日々だったと思います。直接会えない中、孤立せず如何にコミュニケーションしていくか、如何に学びを進めるか、知恵を出されたことと思います。一方で孤独な時間を見つけ得た方は自己を見つめる時間になったことでしょう。私たちはコロナ禍で孤立と孤独の違いに改めて気づいたと言えます。己を顧みる時間は人の成長に不可欠です。このように考えますと、世界規模の禍が次のステージでは福に切り替わるかもしれません。禍福の変化は予測できず深淵です。まさに人間訓の「万事塞翁が馬」のごとしです。

予測が難しい社会ですが、一方で、人は孤立せず仲間と社会を持つことで困難を乗り越え進化してきました。その仲間の一つが同窓会です。仲間づくりには大切な心構えがあります。一つは剣豪宮本武蔵が残した「我以外皆我師」という心構えです。謙虚な「学ぶ心」の大切さを語っていますが、今の皆さんに求められる姿勢と思います。そして感謝の心構えです。アインシュタイン博士は「自分の精神的・物質的生活は、他者の労働の上に成り立っている事に感謝する」と1日百回繰り返したそうです。

社会に出たばかりの時は、どんな人でも未熟な一人の新人です。しかし、学ぶ心と感謝の心を持ち続け、かつ、自分には必ずできる、という信念をもって諦めずに挑戦していけば、新たな創造に繋がり、おのずと仲間も増えていきます。そして、より大切なことは、生涯に亘り、学びと感謝の姿勢を決して忘れないことです。道は必ず切り開かれます。

パンデミックという苦難を乗り越えた経験を活かし、「未来」に大輪の花を咲かせてくださることを祈念し、同窓会からのお祝いの挨拶と致します。



経済学部同窓会会長
大場やすのぶ

名誉教授シリーズ

コロナと向き合った退職後の2年間

小栗 崇 資



2020年3月に退職してから現在までの2年間は、新型コロナに翻弄された日々となりました。退職を機に計画や予定したことが沢山ありましたが、すべてが中止となってしまいました。その意味では、退職後の新たな生活を築けないままの状態が続いているといえるかもしれません。しかし、コロナに感染せず元気に過ごすことが出来ただけでも、よしとしなければと思っています。

残念な思いも強いのですが、元来ポジティブに物事を捉える性格なので、反面でコロナパンデミックを体験して良かった点もいくつか感じています。

1つ目は、仕事を続けることになり、その中で新しい教育方法を体験することが出来た点です。退職しましたが、駒澤大学の経理研究所での日商検定のための簿記講座の講師をさせていただくことになり、この間、毎週2回大学で授業を行ってきました。しかし、コロナ禍の中の授業は大変でした。対面ではなくウェブでの授業を余儀なくされ、Zoomによるオンライン方式の授業を覚えました。そうした体験によりZoomやその他のデジタルツールを使いこなせるようになったのはコロナのおかげです。今ではオンラインと対面を組み合わせた新しいタイプの双方向型授業に挑戦しています。新型コロナは教育・研究のスタイルに大きな変化をもたらしつつありますが、何とかその変化についていけそうな気がしています。

2つ目は、コロナパンデミックという人類史的な事件の中で、現代社会の問題の深刻さをより真剣に考えるようになった点です。新型の感染症は、人間と自然との物質代謝の攪乱・破壊から生まれ、そうした感染症が地球規模での貧困と格差を拡大することを痛感させられました。そうした災禍が現代資本主義によってもたらされることを、自分自身の感染リスクの恐怖とともに思い知らされたわけです。

私なりにそうしたことを様々な文献や議論を通じて深めることができました。自分の専門は会計学ですが、それに限定せず「持続可能な地球と社会」をどう作り出すかという問題を考え、現在はSDGsの実現に向けた研究に取り組んでいます。この間、コロナパンデミックやSDGsに関する論文を5本書きました。また会計学の面でも、この3月には『会計のオルタナティブ—資本主義の転換に向けて』（中央経済社）という編著を出版する予定です。コロナが私たちに問題の解決を迫り、色々考える機会を与えてくれたという感じがしています。

3つ目は、仕事や研究とは異なりますが、自分の生活を見つめ直すことが出来たという点です。ほぼ毎日、妻と散歩をするようになり品川や近隣の地域をくまなく探索(?)しています。また、子どもを通してつながったお父さんお母さんたちと、テニスをしたり運河沿いのウッドデッキで語らったりして、地域での交流が豊かになりました。子育てNPOの副代表も務めることになり、コロナ禍の中で地域におけるネットワークの大切さを強く実感しています。

コロナと向き合った2年間は、コロナによって鍛えられ、コロナから学ばされた2年間でした。コロナに背中を押されて、まだしばらくは頑張らなければとポジティブに思っています。とはいえ、早くコロナ禍を抜け出して、友人たちと酒を酌み交わしたり、旅に出て温泉につかりたいというのが本音です。



研究室訪問シリーズ



水野 祥子
(教授、西洋経済史、
2017年着任)

同窓会の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

2017年4月より経済学部経済学科に着任いたしました。私が担当する「西洋経済史 a」では、近代ヨーロッパの歴史的経験を学ぶことから現代社会の諸問題の構造を深く掘り下げて理解し、課題のありかを明らかにすることを学習目標にしています。というのも、私たちが生きる社会が共有する問題を考えるとき、ヨーロッパの歴史から得られる示唆は決して少なくないからです。この授業では、世界の中でもいち早く工業化を経験したイギリスをはじめ、近代ヨーロッパの経済発展のあり方について考えていきます。

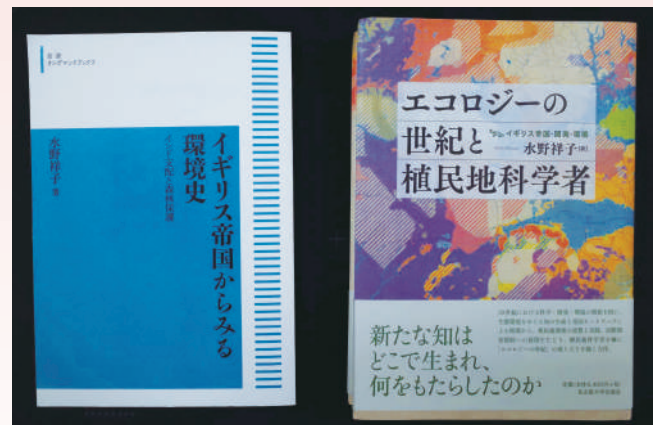
工業化によってヨーロッパの経済・社会にどのような成果をもたらされ、人々の生活がいかに変化したかを理解するとともに、近・現代社会の抱える諸問題がなぜ生まれたか、人々がこうした問題にどう対処してきたかを学びます。

後期の「西洋経済史 b」では、世界経済の形成や国際分業体制の強化について学習します。一体化していく世界の中で、今日のような先進国と発展途上国との格差はいかに形成されてきたのかという問題を長いタイムスパンで考えていきます。さらに、ヨーロッパ本国による開発政策によって植民地の経済、社会や生態環境が大きく改変されるプロセスにも注目します。

グローバル化が進展する現代社会では、国際的な視野に立って物事を判断する人材が求められています。このような人材を育成するためには、異なる社会や文化のあり方を理解し、対応する力とともに、自分と世界をつなげる視点をもつことが必要です。そのため、「演習」では、世界中でどのような問題が生じ、いかなる関係性が構築されてきたかを長期的に学び、国際社会への理解を深めることを目標にしています。学生が世界に目を向け、プレゼンテーションやディスカッションを通して自ら学ぶ力を高められるよう手助けしたいと思っています。

最後に私の研究について少し紹介させていただきます。私はイギリス帝国史を専門としており、最近では英領アジア・アフリカにおける開発と環境の問題に関心を持っています。特に、植民地の開発政策の現場責任者であった科学官僚(テクノクラート)たちに焦点を当て、かれらが環境破壊に直面し、今日の「持続的開発」につながるような知的枠組みをつくりあげていく過程を明らかにしています。植民地開発研究は、途上国への開発援助のあり方を考察する上で有益な問題提起ができると考えています。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



【第6回学生シンポジウムのご報告】



経済学部同窓会長・大場様からのご挨拶

経済学部同窓会の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。ゼミナール連合委員の山中達也でございます。2021年11月20日(土)に第6回学生シンポジウムが開催されました。ご案内の通り、本シンポジウムは、毎年、経済学部ゼミナール連合の学生が企画・運営する学部横断的なゼミの研究報告会で、同窓会の皆様にご後援いただいている大変重要なイベントでございます。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止せざるを得ませんでしたが、本年度は代表の飯牟田雄真さん(経済学科3年)、副代表の山内彩衣さん(経済学科3年)を中心に、対面とオンラインを併用した同時双方向型(ハイフレックス形式)を準備し、感染対策を徹底した上で実施いたしました。

開会式では、同窓会会長の大場やすのぶ様にご挨拶いただきました。「激動の時代において、自らの研究テーマのみならず他領域の学問分野も学び、物事を様々な視点から捉える重要性や、横の繋がりを大切に、各自の社会認識を豊かに広げる機会とする」という開催趣旨にもご賛同いただき、学生たちに温かい応援メッセージをいただきました。

今回は経済学部から27チーム、経営学部から7チーム、法学部から3チームが参加し、「日本経済、市場、消費、貧困、格差、雇用、労働、行動経済学、国際経済、資本主義、教育格差、フェミニズム、民主主義、SDGs、消費者行動、企業、ブランディング、米中問題、金融、ダイバーシティなど、まさに多様なテーマに基づく発表がなされました。各分科会は約4チームで編制され、1チームの持ち時間は発表20分、質疑応答15分の35分という短いものでしたが、種月館の充実した設備のもと、司会担当の学生や、オンラインの管理を担当した学生たちのリーダーシップもあり、円滑で活発な議論が行われました。

多少の機械トラブルや、スケジュールの遅れ、資料の準備不足なども見られましたが、学生向けのアンケート結果を見る限り、全体的な満足度が高かったので一安心しております。来年度に向けて新たにゼミ連を担う学生達には、自由な発想でこれまでになかった試みにも挑戦してもらいたいと思います。引き続き何卒宜しくお願い申し上げます。

(山中 達也・経済学部専任講師)



学生シンポジウム学生代表からのご挨拶

経済学部の学生の活躍

大学ホームページでも公開されておりますが、経済学部会計プロフェッショナルクラスの山本 龍輝さん(経済学部経済学科3年)と山本 楓さん(経済学部商学科3年)が2021年度公認会計士試験に合格しました。現役合格かつ3年生で最難関の国家資格に合格したことは経済学部にとっても快挙といえます。お二人の今後の活躍に期待したいと思います。

経済学部同窓会への入会のご案内

同級生、ゼミやサークルの仲間、地域のお知り合いで、経済学部同窓会に加入していない方がおられましたら下記事務局までお知らせください。入会案内をお送りします。

経済学部同窓会事務局(経済学部事務室)

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1 電話: 03-3418-9343